

国家の規模に応じた調査 ドイツ

～ドイツの環境問題を通して、地域的特色やそれを

とらえる視点を獲得させる授業の実践～

山口県公立中学校教諭

1

はじめに

本単元は、学習指導要領の大項目2の示す国家の規模に応じた地域調査にあたる。この単元の目標は、次のように示されている。

世界の国々の中からいくつかの国を取り上げ、地理的事象を見出して追究し、地域的特色をとらえさせるとともに、国家の規模に応じて地域的特色をとらえる視点や方法を身につけさせる。

しかし、実際の学校現場では、子どもたちが収集した諸資料をもとに地域的特色を追究しても、調べたことをただ発表したり、レポート作りをおこなうことで学習が終わってしまっている場合が多いのではないだろうか。子どもたちが調べた内容の妥当性や、地域的特色を追究するための視点や方法の検証をおこなう活動を学習活動の中で仕組むことが、子どもたちに確かな知識を獲得させることへつながると考える。

2

単元設定をするにあたって

本単元では、「ドイツが環境問題に積極的に取り組むようになったのはなぜか」という学習課題を設定し、それを追究する活動を通して、ドイツの地域的特色と、地域的特色をとらえる視点や方法を獲得することをめざす。

ドイツは、アメリカ、日本に次ぐ、世界で三番目に高いGDPを占める先進国であり、EUにおいても経済的・政治的に重要な地位を占めている。一方で「環境先進国」として、世界のなかでもいち早く、積極的に環境問題に取り組んでおり、わが国のみならず、国際社会においても注目がなされている。このような背景には、9か国の国々と陸続きであるドイツの地勢的特徴が関係している。これらのことを踏まえて、本単元は、「環境問題への積極的な取り組み」というドイツの特色ある事象を単元を貫く課題として設定し、まわりのヨーロッパ諸国とのむすびつきに注目して、地域調査をおこなっていく。

3

教科書の特徴

教科書は、地図を手がかりにしながら、まわりの国との協力関係に注目して、学習をおこなうことができるように設定されている。ドイツの周辺国とのつながりを単に国境線や地域区分だけとらえるのではなく、国境を越えての自然環境や鉄道、道路網といった視点でとらえるには大変有用なつくりである。また、「調べ方」や「調べ先」という小見出しが設定されており、子どもたちが地域調査を行う際の視点や方法が適切に示唆されている。

4 単元構成

(1) 単元構成表

次	学習内容・活動	主眼
1	学習課題の意識化	「ドイツが環境問題に積極的に取り組むようになったのはなぜか」という学習課題を意識し、課題解決に向けての調査方法を検討する。
2	調査活動	諸資料を収集して分析し、それをもとに学習課題に対して、関心をもって追究することができる。
7	自然環境との関係の検証	ドイツの自然と環境問題の関連を検証することを通して、ドイツの自然環境の特色をとらえることができる。
8	産業との関係の検証	ドイツの産業と環境問題の関連を検証することを通して、ドイツの産業が発展した理由を理解することができる。
9	交通との関係の検証	ドイツの交通機関や交通システムのようなすを検証することを通して、ドイツとヨーロッパ諸国との人的・物的つながりのようすをとらえることができる。
10	地域間の結びつきの検証	ドイツの環境問題のとりくみを検証することを通して、ドイツとヨーロッパ諸国との関係を理解することができる。
11	文化・生活との検証	ドイツの文化や生活を検証することを通して、ドイツの生活・文化がキリスト教の影響を受けていることを理解することができる。
12	方法面の検証	ドイツの特色を明らかにするための視点や方法を検討することを通して、国家規模の地域調査の方法を理解することができる。

ここでは、第7次の実践事例を紹介する。

(2) 主眼

「ドイツの自然と環境問題の関連を考察することを通して、ドイツと自然環境の特色をとらえることができる」

(3) 学習の流れ

① 導入部

導入部では、美しい緑が広がるシュバルツバルトと、酸性雨の被害を受けたシュバルツバルトの木々の景観写真を提示した。



美しい緑が広がるシュバルツバルト
「中学校社会科地図 初訂版」p.43



酸性雨の被害を受けたシュバルツバルトの木々
「高等学校新地理A初訂版」(平成11年発行) p.131より
(平成10年頃にはシュバルツバルトが酸性雨の事例としてよく出ていたが、その後の環境を改善する努力で今ではあまり出てこなくなった)

一見美しいドイツの自然が、実際は多大な環境被害を受けていることを知り、子どもた

ちの学習への関心が高まったところで、次の発問を問いかけ、教科書や地図帳など身近な諸資料を参考にして考えさせた。

② 展開部 I

シュバルツバルトなどが酸性雨の被害を受けたのはなぜだろうか。

子どもたちからは次のような反応があった。

- a. ドイツは、ヨーロッパの中でもっとも工業が発展している国であるから。
- b. ドイツはこれまで環境を守ることを考えずに工業を発展させてきたから。
- c. ドイツは、自動車の生産がさかんであるし、国のなかをたくさんの道路がはしっているので、自動車の排気ガスがたくさん出されているから。
- d. 西側にはイギリスやフランスなど工業が発展している国がたくさんあるから。
- e. ドイツはたくさんの国々と隣り合っているので、隣の国の環境被害の影響を受けやすいから。
- f. ドイツの西側から偏西風という風が吹きつけて、汚染物質がドイツに運ばれてくるから。

子どもたちから意見が出なくなったところで、筆者はどの意見も資料に基づいた論拠のある意見であるため正しいことを子どもたちに伝えると同時に、a～dは工業や社会の視点からの意見、e、fは自然環境の視点からの意見であることを伝えた。ここでの主眼は、ドイツの自然環境の特色をとらえることである。そこで、筆者は、地図教科書に掲載されているヨーロッパの酸性雨の森林被害を示し

た地図を提示して、ドイツの酸性雨の被害は、ドイツ自国のみに原因があるのではなく、西ヨーロッパの工業国から偏西風によって運ばれてくる汚染物質も影響していることを示した。また、ドイツで排出された汚染物質が北欧や東欧の森林や文化財にも影響を与えていることも伝えた。

2 工業

A 酸性雨



ヨーロッパ地域の酸性雨被害
「中学校社会科地図 初訂版」p.44

B 工業生産額



ヨーロッパ諸国の工業生産額
「中学校社会科地図 初訂版」p.44

③ 展開部Ⅱ

酸性雨を含めてドイツの抱える環境問題について「自然環境」の視点を全体に提示したところで、子どもたちに次の発問をおこない、再度、考えさせた。

ドイツの環境問題の原因を自然環境に着目して考えてみよう。

子どもたちからは次のような反応があった。

- ・ドイツの北部は平原があるので、偏西風の影響を受けやすい。だからまわりの国が出した汚染物質の影響を受けやすい。
- ・ドイツはたくさんの国々と陸続きであるため、となりの国で起こった環境問題の影響を受けやすい。
- ・ドイツには、ライン川やドナウ川などたくさんの国をまたがって流れる河川があるため、水質汚染が起こったら国境を越えて被害を及ぼす。

④ 終末部

最後に、多くの国々と陸続きであるドイツと、島国の日本を簡単に対比させ、互いの国の自然環境のちがいを指摘しつつも、日本においても、中国からの黄砂や廃棄物の漂流など、国境を越えた環境問題を抱えていることを伝えて、本時の学習を終了した。

5 評価について

本時の授業では、次のような評価内容を設定した。評価をすることは極めて難しいことではあるが、授業中における生徒の発言やノートへの記述などさまざまな生徒の反応に教

師は細心の注意を払いながら評価をおこなわなければならない。

また、1時間の授業だけで限定すると、評価が難しい場合もある。その場合は、一単元を通して、適切な評価をおこなうようにしたい。

観点項目	評価内容
関心・意欲・態度	ドイツの地形や気候などの自然環境について関心を高めることができたか。
思考・判断	ドイツの自然環境の特色について、位置や気候などに着目して指摘することができたか。
技能・表現	地図や地形図からドイツが陸続きで多くの国と接していることについて指摘することができたか。 ドイツに平原が広がり、偏西風の影響を受けていることを指摘することができたか。
知識・理解	ドイツの北部には平原が広がり、南部には山脈が広がっていること、ライン川などの国際河川が流れていることについて理解することができたか。 ドイツの自然環境と環境問題が大きく関連していることを理解することができたか。